

乾性低木林

小笠原諸島父島（中央山東平、夜明平）と兄島（ほぼ全域）の山頂緩斜面を中心に広がる 5-8m の乾性低木林は、母島に残存する湿性高木林とならんで小笠原を代表する森林タイプである。植物社会学の分類体系では「コバノアカテツ-シマイスノキ群集」、「ムニンヒメツバキ-コブガシ群集オガサワラモクレイシ亜群集シマイスノキ変群集」、「岩上荒原植物群落」の 3 タイプがほぼこの乾性低木林に相当する。これらの 3 タイプの植生の分布状況は、図に示すとおりであり、兄島のほぼ全域に約 473ha（島面積の約 60%）、父島の東平と夜明平を中心に約 199ha（島面積の約 8%）分布している。



乾性低木林の概観

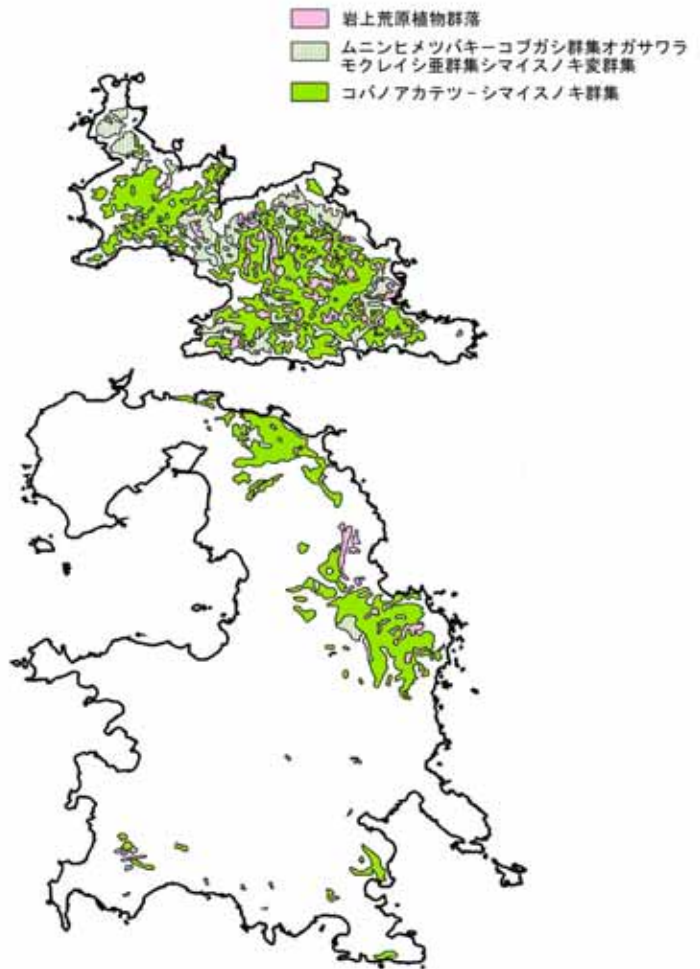


図 乾性低木林の分布

乾性低木林の林冠を構成する主要樹種は、東南アジアから沖縄にかけての照葉樹林の構成種と種あるいは属のレベルで共通するものが多いので、小笠原の乾性低木林は照葉樹林が小笠原の低平化と雲霧帯消失に伴う長期的な乾燥傾向の中で硬葉樹林へと変容してきたものととらえることができる（清水、1998）¹。表に乾性低木林を構成する樹種（固有種）と西南暖地や琉球列島で確認されている照葉樹林帯の近縁種の例を示す。

表 乾性低木林を構成する樹種（固有種）と照葉樹林帯の近縁種の例

種名	西南暖地や琉球列島の近縁種
アコウザンショウ	カラスザンショウ
オオシラタマカズラ	シラタマカズラ
ウチダシクロキ、チチジマクロキ （ハイノキ属 3 種）	ナカハラクロキ
オオバシマムラサキ、シマムラサキ （ムラサキシキブ属 3 種）	ムラサキシキブ
オオミトベラ、シロトベラ （トベラ属 4 種）	トベラ
オガサワラクチナシ	クチナシ
オガサワラグミ	リュウキュウツルグミ
オガサワラビロウ	ビロウ
コブガシ、テリハコブガシ、ムニンイヌグス （タブ属 3 種）	タブノキ
コヤブニッケイ	ヤブニッケイ
シマイスノキ	イスノキ
シマギョクシンカ	ギョクシンカ
シマタイミンタチバナ	タイミンタチバナ
シマホルトノキ	ホルトノキ
シマムロ	オキナワハイネズ
シマモチ （モチノキ属 3 種）	モチノキ
シラゲテンノウメ、タチテンノウメ （テンノウメ属 2 種）	テンノウメ
タコノキ	アダン
ツルダコ	ツルアダン
トキワイヌビワ （イヌビワ属 3 種）	イヌビワ
トキワガマズミ	ハクサンボク
ヒメフトモモ	アデク
ムニンアオガンピ	アオガンピ
ムニンエノキ	クワノハエノキ
ムニンゴシュユ	ゴシュユ

¹清水善和（1998）乾性低木林の位置づけ．4.群島化と植生の分化．小笠原自然年代記：54-55

種名	西南暖地や琉球列島の近縁種
ムニンシャシャンボ	ギイマ
ムニンシロダモ	シロダモ
ムニータツナミソウ	タツナミソウ
ムニンハナガサノキ	ハナガサノキ
ムニンナキリスゲ	ナキリスゲ
ムニンネズミモチ	ネズミモチ
ムニンハツバキ	ツゲモドキ
ムニンヒメツバキ	イジュ
モンテンボク	オオハマボウ
ヤロード	シマソケイ

資料 1 : 清水善和 (1999) 小笠原諸島父島における乾性低木林の 21 年間の個体群動態 . 保全生態学研究 vol4 : 175-197

資料 2 : 東京都 (1997) 平成 9 年度小笠原空港環境現況調査におけるコバノアカテツ-シマイスノキ群集のデータをもとに作成